

私立大学図書館協会国際図書館協力委員会は、「大学図書館における学習支援を考える」をテーマに、2012年11月9日、龍谷大学アバンティ響都ホールにおいて、2012年度国際図書館協カシンポジウムを開催しました。2011年度に実施した海外集合研修で訪問した



米国の大学図書館から講師2名をお招きし、パネリストとして研修参加者2名にご参加いただきました。

<当日のプログラム>

本シンポジウムは、私立大学図書館協会西地区部会長校・広島修道大学図書館の今石正人館長の挨拶から始まり、前半は米国大学図書館からの2名による講演、後半は今石館長の司会のもと、2011年度海外集合研修参加者2名からの所属する図書館の現状についての報告、米国人2名の補足説明に続き、それぞれの講演、報告に対して質問、回答、議論していく形式で4人によるパネルディスカッションが行われました。

また、会場の出席者からも多くの発言、質問がなされました。質問に対して、講師から有益な助言がなされるなど、充実したシンポジウムとなりました。

シンポジウム終了後、場所を移しレセプションが行われました。今回、会場を提供いただいた龍谷大学図書館の小島勝館長の挨拶の後、講師を交え、出席者間で交流、情報交換がなされました。

<講演1>

Ms. Sarah Hutton

Head of Undergraduate Teaching and Learning Services in the Library System at the University of Massachusetts Amherst



講師プロフィール

サラ・ハットン氏：マサチューセッツ州立大学教育学習サービス部長。担当部では、学部学生支援のためのラーニングcommons、教員のための教育commonsをサポートしている。サラ氏は初年次教育にも直接携わり、優秀学生対象のCOMMONWEALTHSカレッジの文章指導、カリキュラム中の情報収集、媒体や視覚リテラシーにも関わっている。サラ氏は現在のところ、大学の同僚と共に、Du Bois 図書館の中に学部学生のための新たなスペース：「マルチメディア制作センター」の設置業務に携わっている。

<講演原稿>

英文：[Supporting the 21st Century Learner: Building the Multimedia Production Center at the University of Massachusetts Amherst](#)

[講演資料](#)

日本語訳：[21世紀に学ぶ人を支援する：マサチューセッツ大学アマースト校でのマルチメディアプロダクションセンター構築](#)

<講演2>

Mr. Anthony Helm
Head of Digital Media and Library Technologies for the
Dartmouth College Library

講師プロフィール

アンソニー・ヘルム氏：ダートマス大学の電子媒体と図書館テクノロジー関係の責任者である。彼は主として、ジョーンズ・メディアセンターと電子図書館技術グループを管理している。さらに、ダートマス大学の学習推進委員会の役職であり、図書館経営グループの一員である。



<講演原稿>

英文：[Towards An Enhanced Learning Commons Ideal at Dartmouth College](#)

講演資料

日本語訳：[ダートマスカレッジのラーニングコモンスの理想をさらに高くかかげるために](#)

<パネルディスカッション>



司会 今石正人 氏

私立大学図書館協会西地区部会長校
広島修道大学図書館長



豊田 哲也 氏

立命館大学図書館サービス課

<報告原稿>

[大学図書館における学習支援を考える～立命館大学図書館ラーニングコモンス「BKCびあら」事例紹介～](#)

村上 孝弘 氏

龍谷大学図書館事務部

<報告原稿>

[龍谷大学における学習支援－その仕組みと実際－](#)





参加者から多くの質問がなされ、活発な意見交換が行われた。

<レセプション>



龍谷大学図書館長 小島 勝氏



<アンケートより> 一部抜粋

- ・現在、大学図書館が抱えている学習支援という非常に関心が高いテーマでよかったです。アメリカの2つの大学の詳細な事例とともに、日本のラーニングコモンズ、学習支援と比較しながら、うまく展開され、とてもすばらしいシンポジウムだったと思います。アメリカのラーニングコモンズの背景にあるもの、その課題についても知ることができ、とても勉強になりました。
- ・本学ではまだラーニングコモンズの導入ができていない状態で、今後の導入に向けての参考になりました。特に、龍谷、立命館両大学の発表はこれから導入しようとする大学へ、アメリカの大学の事例はその先への参考になると思いました。

<出席者>

大学図書館関係者 68 名（国立大学図書館協会加盟校からの出席者も含む）、協賛企業関係者 12 名、合計 80 名が参加。